

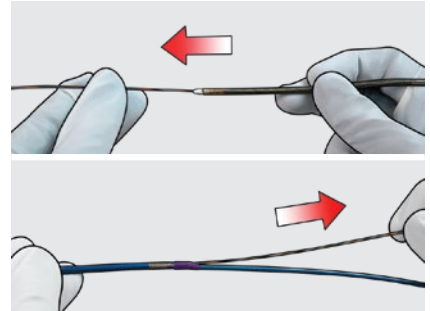
Evolution[®] Biliary

CONTROLLED-RELEASE STENT

Features



Step 1



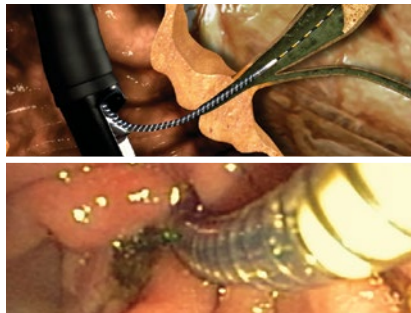
内視鏡のアクセサリチャンネルに挿入したガイドワイヤに沿ってデリバリーシステムを進め、アウターカテーテルのジップポートからガイドワイヤを出します。

Step 2



ガイドワイヤロックングデバイスのロックを解除し、デリバリーシステムのジップポートがアクセサリチャンネル内に挿入されるまで少しずつ進め、ガイドワイヤを固定します。引き続きデリバリーシステムを少しずつ進めます。

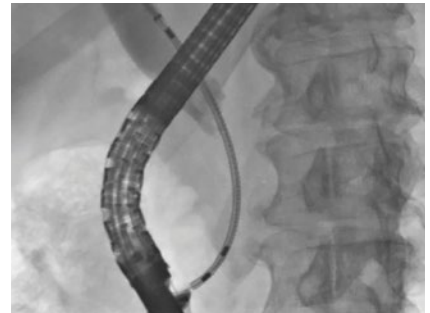
Step 3



起上装置を下げたまま、内視鏡下で視認できるようになるまでデリバリーシステムを進めます。経乳頭的にステントを留置する際は、近位端のデリバリーシステム上の黄色マーカを目印にして、ステントの正確な留置位置を確認します。

注意：乳頭にかかるステント留置は、展開後に乳頭から十二指腸内へ出るステント長が約 0.5 cm となるように留置してください。

Step 4

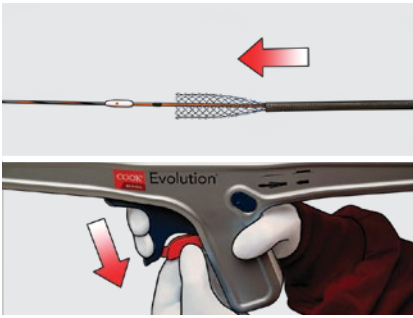


エックス線透視下にて起上装置を下げたまま、ステント部が狭窄部を越えるまでデリバリーシステムを少しずつ進めます。エックス線透視下でステント両端部にあるインナーマーカ (Step 6b、図中の 2 と 4) を視認し、両インナーマーカが狭窄部両端を 1 cm 以上覆うように配置します。

Step 3 の画像は EVK (ドイツ、デュッセルドルフ) の Horst Neuhaus 教授より提供

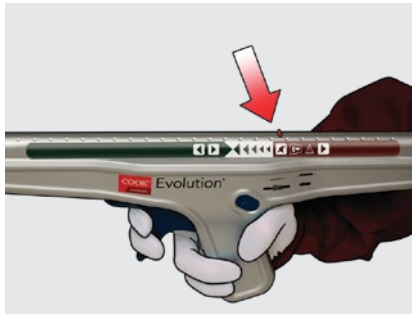
Step 4 および Step 9 の画像は Erasmus Medical Centre (オランダ、ロッテルダム) の Marco Bruno 教授より提供

Step 5



ステント部が適切な位置にあるか確認します。ハンドルから赤色のセーフティガードを外してトリガを引き、ステントを展開します。トリガを引き続けて、ステントの展開を続けます。

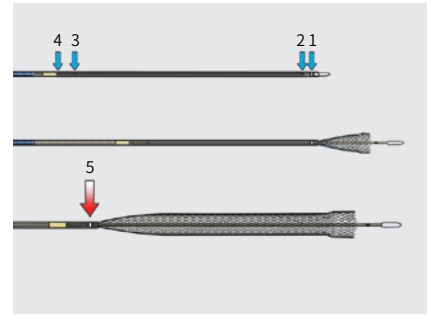
Step 6a



展開中にステントの位置変更が必要な場合は、ステントを再収納することが可能です。

注意：復帰限界点を越えた後はステントを再収納することができません。（デリバリーシステム上部のステント展開インジケータ（赤色マーカ）が、ハンドル上の復帰限界点を越えた場合）。

Step 6b

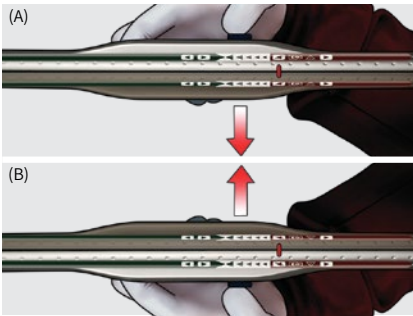


復帰限界点はエックス線透視下でもモニタリングできます。アウターカテーテルのバンド（図中の1）が復帰限界点インナーマーカ（図中の3）と重なる（図中の5）まではステントの再収納が可能です。

注意：アウターカテーテルのバンドが復帰限界点インナーマーカを越えたら、ステントを再収納することはできません。

注意：ステントは最大3回まで再収納することができます。

Step 7

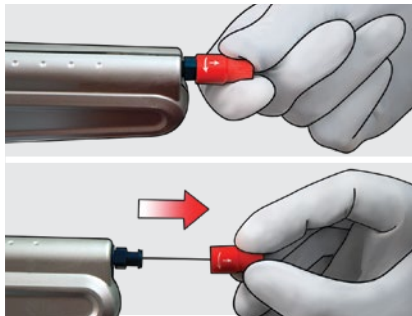


(A) ステントを再収納する際は起上装置を下げ、デリバリーシステムの側面にある方向ボタンを反対側に押します。

注意：再収納する際は、親指で方向ボタンを押さえたまま最初のトリガを引きます。その後、必要な長さに達するまでトリガを引きます。

(B) 展開を再開する際は、方向ボタンを逆側に押し、逆側に押さえたまま最初のトリガを引きます。

Step 8



ステントが復帰限界点を越えたら、（赤色の）ポートを回し、セーフティワイヤをハンドルから完全に引き抜きます。トリガを引いて、ステントの展開を続けます。

Step 9



展開後、エックス線透視下でステントが完全に展開されたことを確認します。ガイドワイヤが配置されている状態で、方向ボタンを再度反対側に押します。トリガを引き、デリバリーシステムを完全に再収納します。起上装置を完全に下げて、ガイドワイヤとデリバリーシステムを内視鏡から抜去します。

本品の詳しい使用方法は最新の電子化された添付文書を参照してください。



製造販売元
クックメディカルジャパン合同会社
TEL:0120-289-902
cookmedical.co.jp